

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597910011		
法人名	有限会社 盛和会		
事業所名	グループホームのぞみ苑		
所在地	山口県美祿市美東町大田3838-1		
自己評価作成日	平成 26年 1月 14日	評価結果市町受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=35>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 26年 1月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・家庭的な環境のもとで入浴、排泄、食事等日常生活上の掃除や食事作り、畑仕事等生活リハビリを行うことにより、利用者のその有する能力に応じ機能の回復または低下の防止に努め、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援している。
- ・定期的なボランティアや保育園の来訪を通して、地域の方との繋がりを大切にし、又ご家族にも苑内でのイベント時はご案内をし、一緒に楽しんでいただける機会をつくるようにしている。
- ・食事は季節の食材を使用し、利用者にも出来る事は手伝ってもらい三食とも苑で手づくりをしている。
- ・入所中のみならず、退所後も地域密着型を生かし、利用者・家族との信頼関係を続けるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調理担当の職員を確保されて、差し入れの野菜や旬の野菜などを使用され、三食とも事業所で食事づくりをしております。利用者は、野菜の下ごしらえや味見、箸配り、テーブル拭き、配膳、下膳、食器洗いなど一人ひとりができることを職員と一緒にされています。誕生日や季節に合わせた行事食、お弁当を持って戸外で食べたり、外食、喫茶店や中庭でのティタイムなど、いろいろな場面をつくられて、利用者が食事を楽しめるように支援しておられます。地域の清掃作業には利用者も職員と一緒に参加されたり、神社の祭りへの参加、地域にあるお寺に法話を聞きに行かれたり、小学校の運動会の見学、道の駅の催しに参加されている他、保育園児やボランティアとの交流など地域と日常的に関わりを持たれています。季節の飾りづくり(折り兜、七夕飾り、クリスマス輪飾り)や紙粘土工作、ビニール紐のかご作り、野菜づくり(草取り、水やり、収穫)、食事の準備、後片づけ、散歩、買い物、ドライブなど活躍できる場面をつくられて、利用者が張り合いのある暮らしが出来るように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、事務所内に掲示し、毎朝の申し送り前に、職員全員で唱和し、日々の業務に当たっている。	地域密着型としての理念をつくり、事業所内に掲示し、朝の申し送り時に理念を唱和し確認して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーへの買い物に出かけたり、ゴミステーションを利用し、清掃も行っている。また、毎月ボランティアの訪問を受けたりなど、地域活動にもできる限り参加している。	地域の清掃作業に利用者と職員が参加している他、地域にある神社の祭りに出かけたり、お寺に法話を聞きに行ったり、小学校の運動会の見学や道の駅での催しに出かけている。年1回、保育園児の来訪がある他、銭太鼓、立太鼓、大正琴、三味線、日本舞踊、合唱、南京玉すだれなどのボランティアの来訪があり、交流を楽しんでいる。散歩や買い物時に地域のひとと挨拶を交わしたり、米や野菜、果物などの差入れがあり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域のひと々に向けて活かしている	のぞみ苑だよりに認知症の基礎知識などを掲載し、認知症への理解について取り組んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部機能評価により、日々の支援を再度見直している。評価後は結果を職員全体に伝え、具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解した上で、評価をするための書類に全職員が記入し、代表者と管理者がまとめ、できたものを職員が閲覧している。前回の評価結果を受けて、職員が話し合い目標達成計画にあげて、朝の申し送りの後で認知症についてなどの勉強をするなどできるところから、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活状況を報告し、御家族や参加者からの要望などを聞き、議事録を作成。それを欠席の家族などに配布し、より良い支援ができるように努めている。	2か月に1回開催し、ユニット毎の状況報告や活動報告、インシデント、アクシデント報告、外部評価結果の報告をして、意見交換をしている。利用者にはリハビリをして欲しいという家族の意見で協力医療機関の協力を得て作業療法士の訓練を取り入れるなどサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町への関係機関に出向く事もあり、協力体制が向上するように取り組んでいる。	市担当課には出向いて相談し、助言を得たり、情報交換するなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターの職員は運営推進会議の他、時折来訪して、情報交換するなど日頃から連絡を密に取っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の入り口には鍵がなく、日中は玄関の鍵はかけずに見守り、夜間帯は時間毎の見守りに限らず危険を察知した時は適切な介助を行っている。又緊急やむを得ない場合を除きベッド柵等の利用は行わず行動制限をしないようにしている。	身体拘束について、何が拘束にあたるのか具体的な事例で学び、職員は正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時は、管理者が指導している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々介護の中で、管理者が虐待に値する行為がどういう言動か具体的にあげて、職員間と意見交換を行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理や地域での日常生活が困難となった利用者様に社協・民生委員・司法書士と連携を取り、必要に応じた制度を取り入れ、安心した入居生活が継続できるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に際しては、特に環境が変わることへの不安、御家族の金銭面の事についてデリケートに向き合うように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を引き出せるように、コミュニケーションをはかるように努力している。家族の面会時には、管理者のみではなく、なるべく担当職員が対応し、言いにくい事こそ直接話して頂けるように関係性を築いている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明してる。面会時や電話、運営推進会議時などに家族から意見や要望を聞いている。運営推進会議時に家族から出た意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の介護面での疑問は、朝のミーティングでリーダー中心に話し合い、その中での改善策を、管理者がいち早く出せるようにし、共に「現場第一主義」で取り組んでいる。	2ヶ月に1回のスタッフミーティング時や毎朝のミーティングで職員から意見や提案を聞く機会を設けている。日常の業務の中でユニットリーダーが職員から意見を聞いている。利用者の状況に合わせて、職員の休憩時間の取り方を改善するなど意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら勤務表を作成し、職員の有給希望・勤務希望を取り入れるように対応している。新人が育つ環境作り、スタッフの指導力の向上がやりがいにつながるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、ある程度の施設の業務に慣れれば、資格取得に対して援助したり、管理者にも、よりレベルアップしたケアの取り組みが学べるように、研修を行うようにしている。	外部研修の情報を職員に伝えているが、機会の確保が困難な状況があり、参加していない。毎朝の申し送りの後に勉強会として認知症の基礎や感染症の予防、身体拘束についてなど、少しずつ学んでいる。	・内部研修の充実 ・外部研修への参加の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の入退所にも、同業者に連絡をし、お互いの状況を話せる環境作りに努めている。市の同業者会議に積極的に参加し、介護の色々な取り組み方を勉強する。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設の見学だけでなく、入居拒否のある方には、自宅訪問なども行い、本人との関係を築くようにもし、住み慣れた環境を活かした生活が出来るように取り組んでいる。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネなどが連絡を取り合い、現状における問題点や不安、要望などにこたえられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を取り入れ、検討し、必要な面での支援ができるように対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事への参加の場面を作り、料理と一緒に買い物をを行う。又、趣味やイベントの準備もしてもらい、共に支え合う関係づくりができるように工夫している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで連絡を取り、本人と家族の絆を大切にしながら、関係が維持できるように努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が外出、外泊ができるように家族に協力していただいたり、職員が利用者様と一緒に馴染み深い場所や自宅などへ寄ったりしている。	知人や友人、趣味の仲間の来訪がある他、地域にある美容院への同行や行きつけの美容院の利用、自宅周辺までの散歩、墓参り、法事への参加の支援や家族の協力を得て、外出、買い物、外食、外泊など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業の分担などを通して、利用者同士が会話をしたり一人ひとりが孤立することなく過ごしてもらう努力をしている。また、必要と思われる場合があれば介入できるように目を配っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから、家族に連絡を取ったり、問い合わせにも応じ、気軽に遊びに来て頂けるようにし、協力ができる体制を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望などを聞き、希望に沿った支援ができるように努めている。また、利用者様の言葉や表情や動作などをカルテなどに記入し、本人本位の生活が出来るように支援している。	センター方式のシートを活用し、日常の関わりの中での利用者の様子や会話、要望などをその都度記入し思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、カンファレンスで本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力を得て、今までの生活環境をお聞きし、細かい内容は、センター方式を使用し、生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況をフローシートなどに記入し、誰もが確認、把握できるようにしている。また、日勤者は夜勤者にその日の動きや様子を伝え、記録に残している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望などを聞いたうえで管理者、担当職員などが集まって意見などを出して話し合い、計画、作成に役立てている。	月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、医師の意見を参考にして、利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。カンファレンスには2名の家族が参加している。モニタリングを6か月に1回実施し、計画の見直しをしている他、利用者の状態の変化に合わせて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別の記録を記入し、ケースカンファレンス等で役立て、ケアプランに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診援助、リハビリ、選挙、墓参りなどその時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々に定期的に来てもらっている。今までされていた散歩を、馴染みの場所まで一緒したり、回覧を渡しに行ったり、地域の一員として自覚を大切にしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入苑する時本人家族の納得された医療機関に受診できる様に支援している。受診前後に家族に連絡を取り、付き添った時は状況を電話で報告している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援し、受診時は、利用者の情報を、電話やFAX、手紙などで医師に伝え、受診後は家族から報告を受け、情報を共有しているなど適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医の看護師と密に連絡をとり、必要時にはその都度相談し適切な指示を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は入院機関に出向き、看護師や家族に状況経過を確認し地域連携室や看護師と連絡を取り合い時には医師、家族も同席してもらいカンファレンスをしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、家族と密に連携をとり、必要に応じてカンファレンスを行い、他施設等への転居を含め、ご本人ご家族の意向を尊重しながら希望に沿った支援ができるようにしている。	契約時に、重度化や終末期に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師や家族、管理者とで話し合い、移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故時のマニュアルを作成し事務所やリビング等にイラスト入りの掲示物を貼り、早急に対応できる様に取り組んでいる。事故後直ちに主治医に連絡して指示を仰いでいる。	インシデント、アクシデント報告書に記録し、その場にいた職員で改善策を話し合って記入し、朝の申し送り時に検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。初期対応について勉強会で学んでいるが、全職員が訓練に取り組むまでには至っていない。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を置き消防署の指導のもと消防避難訓練を行う。その時は地域の消防団区長、民生委員、社協、利用者の家族にも参加してもらい意見交換をし、協力体制を整えている。	年2回、消防署の協力を得て、火災時、昼夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練には、家族、地区の消防団員、民生委員、区長の参加があり、緊急時の連絡網に区長、民生委員、地区の消防団員に加入してもらい、災害時に備えるなど、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩でもあるので利用者の目線に合わせて言葉かけし、プライバシーに配慮しながら介護し、言葉遣いに気を付けている。	利用者を人生の先輩として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応があれば管理者が指導している。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を目と目を合わせて1対1でじっくり聴く様に心掛けて、自己決定できるような言葉かけをしている。表現が難しい利用者の立場に置き換えて支援する様に努めている。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者お一人お一人の生活ペースに合わせてその日の過ごし方は状況に応じて行う。要望があればなるべく叶えられる様に意思の尊重に努める。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を聞き、その意見を取り入れるようにしている。利用者お一人お一人の清潔感を保持しその方にあった身だしなみを行う。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握している。職員は利用者と一緒に準備し出来る方には配膳、下膳、茶碗を一緒に洗ってもらっている。職員は同じ食卓で食べている。	調理担当の職員3名(内1名調理師)を確保し、交代で献立をつくり、差入れの野菜や、旬の野菜などを使用して三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、箸配り、テーブル拭き、野菜の下ごしらえ、味見、配膳、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にし、同じテーブルを囲んで食事をしている。誕生会や季節に合わせた行事食、お弁当を戸外で食べたり、外食、喫茶店や中庭でのティータイム、サンドイッチやたこ焼きを一緒につくって食べるなど、いろんな場面をつくり、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日毎食の食事量、1日の水分量をカウントし利用者の状態に合わせ、とろみ、粥、パン、キザミ食、ミキサー食にし対応している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者お一人お一人に言葉かけをして歯磨き・義歯洗浄・うがいを援助している。困難な方は、職員が歯磨きティッシュも使用している。義歯の保管をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄の状況、排泄パターンをセンター方式で把握。誘導が必要な利用者はこまめに行い、おむつ使用の利用者にも誘導をまめに行い、時間毎の交換、又時間毎以外にも確認をしている。	排泄状況を記録して、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カルテで排便状況管理し、便秘予防のため水分補給・牛乳等飲用し、ラジオ体操・食前体操で体を動かしてもらっている。また必要に応じて医師への薬でのコントロールの指示も仰いでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人お一人の入浴シートを用い個々のペースに合わせて入浴支援している。利用者とは職員がマンツーマンで入浴準備し、入浴を行い、安全で安心して支援できる様に努めている。	入浴は毎日、10時から11時30分までと13時30分から15時30分まで可能で利用者の希望や体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しめるように支援している。入浴をしたくない人には、言葉かけを工夫したり、職員を交代するなどの支援をして、入浴できるようにしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ラジオ体操等で軽く体を動かしてもらい夜眠れるように援助する。一応消灯時間はあるが、個人のペースやその時の状態に対応している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者お一人の服薬BOXで管理し、医師の指示の元服薬支援している。2週間に1回医師の服薬処方を行っている。「薬一覧表」を事務所において職員がいつでも確認できる様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、生け花、楽器演奏、合唱、習字、読書、買い物、移動販売(パン、ヤクルト)の利用できる力を活かして生活の中に取り入れ楽しんでもらっている。	テレビ視聴(歌番組、水戸黄門、相撲など)、新聞や本を読む、紙粘土工作、竹細工、新聞紙のゴミ袋づくり、千羽鶴づくり、折り兜や七夕飾り、クリスマス輪飾りづくり、ビニール紐のかごづくり、オルガン演奏、大正琴、詩吟、習字、俳句、ぬり絵、積木パズル、カラオケ、体操、風船バレー、生け花、食事の準備、後片づけ、草取りや水やり、収穫などの畑仕事、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が張り合いのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物、図書館、道の駅、足湯、見舞い、墓参り、散歩をしたりドライブに行ったりしている。天気の良い日は中庭でのお茶をしたり、また日光浴等を行い屋外に出られる様に場面作りする。	散歩や買い物、季節の花見(桜、藤)、ドライブ、地域行事への参加、外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑外へ買い物時や移動販売が来られた時は利用者がお金を持って自分で支払えるように配慮している。家族と連携し、紛失やトラブルを避けるように理解を求めている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかきたい利用者はリビングに置いてある電話や携帯で連絡できる様に支援している。手紙についてもいつでも書ける様に便箋・封筒を用意して支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間(リビング・廊下・居室)に季節の壁飾りや生け花等を飾って演出している。証明や空調についても職員が操作し居心地よい明るさや室温の中で居心地よく過ごしていただける様に気を配っている。BGMに音楽を流している。	共用空間は明るく、室内には季節に合わせた壁飾りや観葉植物、生け花があり、窓からは外の野山の風景や街並みを一望でき、季節の移り変わりを感じることができる。台所が居間とカウンターのみで仕切られていて、食事づくりの様子を見ることができ、調理の音や匂いも伝わり生活感がある。テレビ、テーブル、椅子、ソファなどが配置してある他、畳の間に横になって休めるなど、利用者一人ひとりの居場所づくりをしている。トイレのドアが利用者にわかりやすく目につくように赤いドアになっている。温度、湿度、換気、音に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を共有空間に所々に置いて、利用者が好きなところで過ごせる様に居場所作りをしている。ソファでみんな囲み談笑したりして利用者同士くつろげるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのダンスや仏壇を持ってきてもらったり、家族の写真を飾ったりしている。家具の配置等も利用者と相談しながら行っている。	ダンス、机、テレビ、小円卓、椅子、ソファ、カーペット、鏡台、衣装ケース、ハンガー、仏壇、ぬいぐるみ、人形、アルバムなど使い慣れたものや好みのものを持ち込み、写真や自分の作品、表彰状を飾って、落ち着いて過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室などに手すりを設置し、歩行に不安がある方でも出来るだけ自力で移動できる様にしている。赤いドアでトイレの位置を分かり易くしている。バリアフリーにして段差なく車椅子の方でも安心・安全に移動できる様にしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームのぞみ苑

作成日：平成 26年 12月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	各スタッフの介護力に合わせた内外研修の時間の確保が難しく、緊急時の対応など具体的な場面を設定した研修が行われていない。	介護するスタッフがいざという時に困らない対応が出来るよう、各個人の今の介護の不安な部分を聞きだし、話し合いや研修できる時間を設け、利用者に安心で安全な生活が提供できるようにする。	介護基礎知識を見直し、スタッフが自信を持てる内部研修を行う。まず今の介護の中で一番こういった場面に不安があるかをモニタリングし、具体的な場面設定で取り組む。外部での研修にも積極的に参加できるよう機会を作る。	1年
2	56	利用者の認知や、介護度にレベルの差がある中、介護度の低い方には出来る力の場面づくりが習慣化されつつあるが、介護度の高い利用者への場面づくりがまだ乏しい。	介護度が高くなったり、認知症が進まれた利用者にも、日々の生活の中で出来る事や、したい事を聞き出せる支援の習慣化。出来る力の場面づくりをスタッフが一緒に取り組める姿勢を積極的に持つ。	介護度が高くなった方、認知が急激に進まれた利用者の担当のみならず、スタッフ同士と一緒に意見を出し合い、出来る力の場面設定やレクリエーションを考えてみる。それを習慣化できるような生活の支援をプランに生かして行く。	6ヶ月
3	20	日頃お会いできる家族には、利用者の意向や様子などを細かくお伝えし、要望を聞く体制は整いつつある中、遠方の家族、入所されて間もない家族には、意見や要望をお聞きする体制が不十分である。	遠方の家族や入所間もない利用者の家族にも交流が持てるような機会を作る。また、利用者のみならず、家族が困っていることや、要望など、思いを引き出せるようなサービス環境を提供する。	遠方の家族には、会える機会を増やす計画をこちらからも提案し、利用者となかなか会づらい事情がある家族にも、その気持ちにしっかり寄り添える関係づくりが出来るよう個別のカンファレンスも行う。	1年
4	15	他の同業施設の取り組みを見学したり、交流する場が少ない。	市の施設会議や、グループホーム協会など同業の集会に参加する時間を確保し、お互いの施設を見学し合える交流会を設ける。	市の3ヶ月に1度ある介護保険利用施設の会議で施設間の情報交換をし、スタッフ同士の交流だけでなく、利用者同士が遊びに行けるような施設関係を築けるように交流会を計画する。	1年
5	1	毎日の理念唱和であるが、スタッフ一人ひとりの真意が反映しておらず、なれ合いが生じている。	本来の理念の真意を見つめ直し、理念に対し各自が新たな気持ちで介護に臨めるようにする。	理念の中の「住み慣れた地域で」とあるがそれは利用者にとっての今の場所なのか、これまでの住んでいた場所なのか、改めて見つめる。そしてスタッフ一人ひとりが理念の真意を見つめ直し、改めて唱和できるようにする。	2ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。